

滋賀県内でのスマートインターチェンジの开通について

平成 25 年 10 月 21 日、名神高速道路の彦根～八日市 I C 間に、県内初のスマートインターチェンジ（S I C）である「湖東三山 S I C」が开通了。またこれに続き、「蒲生 S I C」（八日市～竜王 I C 間）と「小谷城 S I C」（長浜～木之本 I C 間）の开通に向けて事業が進められている。そこで今回は、S I C とその周辺地域の現状についてみてみたい。

1. スマートインターチェンジ（S I C）の概要

(1) S I C の概要と導入背景

スマートインターチェンジ（以下、S I C）は、高速道路の本線上またはサービスエリア（S A）、パーキングエリア（P A）などに設置されている E T C 車両専用のインターチェンジ（I C）である。なお E T C とは、料金所ゲートに設置されたアンテナと車両に装着した車載器との間で無線通信を用いて自動的に料金の支払いを行い、料金所をノンストップで通行できるシステムのことである。

日本の高速道路の I C 間の平均区間は約 10km で、欧米諸国（約 4～5 km）の約 2 倍と長い。効率的に I C を設置し、高速道路の利便性の向上、地域生活の充実、地域の活性化へ寄与することを目的として導入された。

(2) 種類

S I C には、「S A・P A 接続型」と「本線直結型」の 2 つの型がある。

タイプ	特徴
① S A・P A 接続型	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路との接続箇所が S A・P A にあるもの。 ・既存の施設の活用により、比較的容易にアクセス路を確保することができる。
② 本線直結型	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路本線へ直接アクセスするもの。 ・S A・P A の存在しない箇所に設置することができる。

(3) 導入メリット

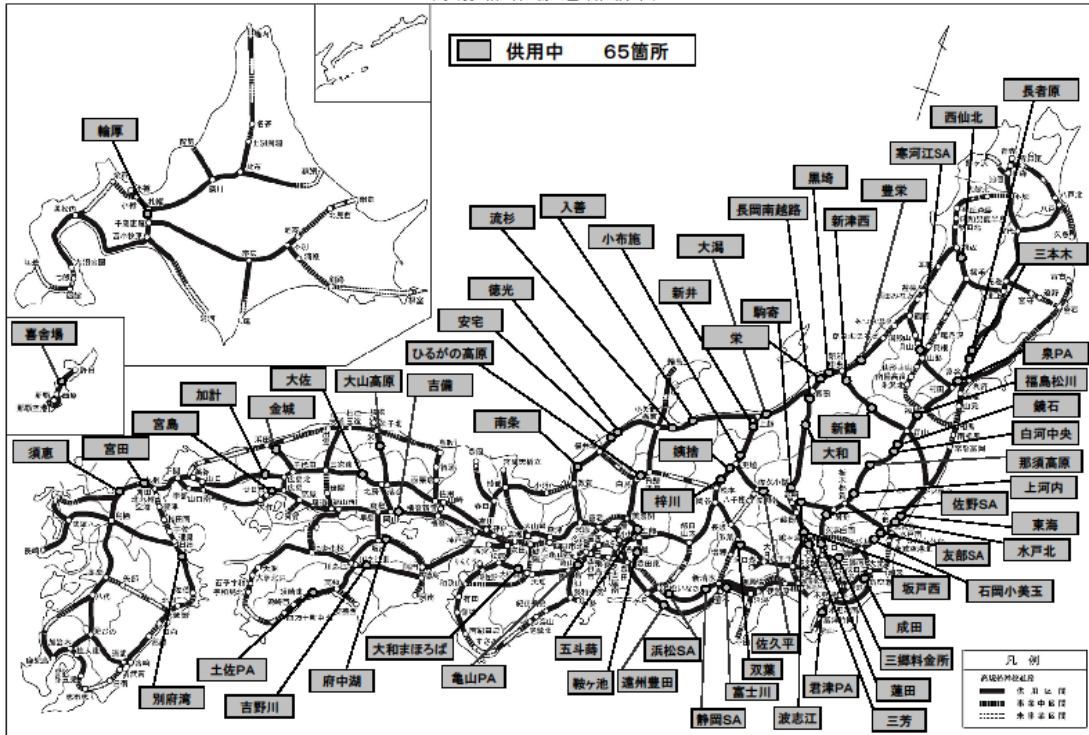
S I C は通常の I C と比べて、一般に以下のメリットがあるといわれている。

対象者	内容
事業主体	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の I C と比べて、設備が簡易 …設備導入コストが低く、また無人となるので運営コストも低くなる。
利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートの出入りにかかる手間を省略 …ゲートでの通行券の受け取り、料金の支払い手続きが不要である。料金所での小渋滞を緩和できる。 ・E T C 利用者だけの割引制度が利用可能 ・「時間帯割引」…通行する曜日、時間帯、距離により最大 50% の割引が受けられる。 ・「E T C マイレージサービス」…高速道路の E T C 利用金額に応じてポイントがたまり、そのポイントを無料通行額に交換できる（要申込）。 ※E T C 利用には、クレジットカードの作成、専用車載機の購入・セットアップが必要であり、初期費用として数千円から数万円がかかる。
社会全体	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の軽減 …料金支払いのための自動車の着発進やアイドリングの繰り返しが無くなるため、料金所付近の騒音や C O 2 などの排出ガスが軽減される。

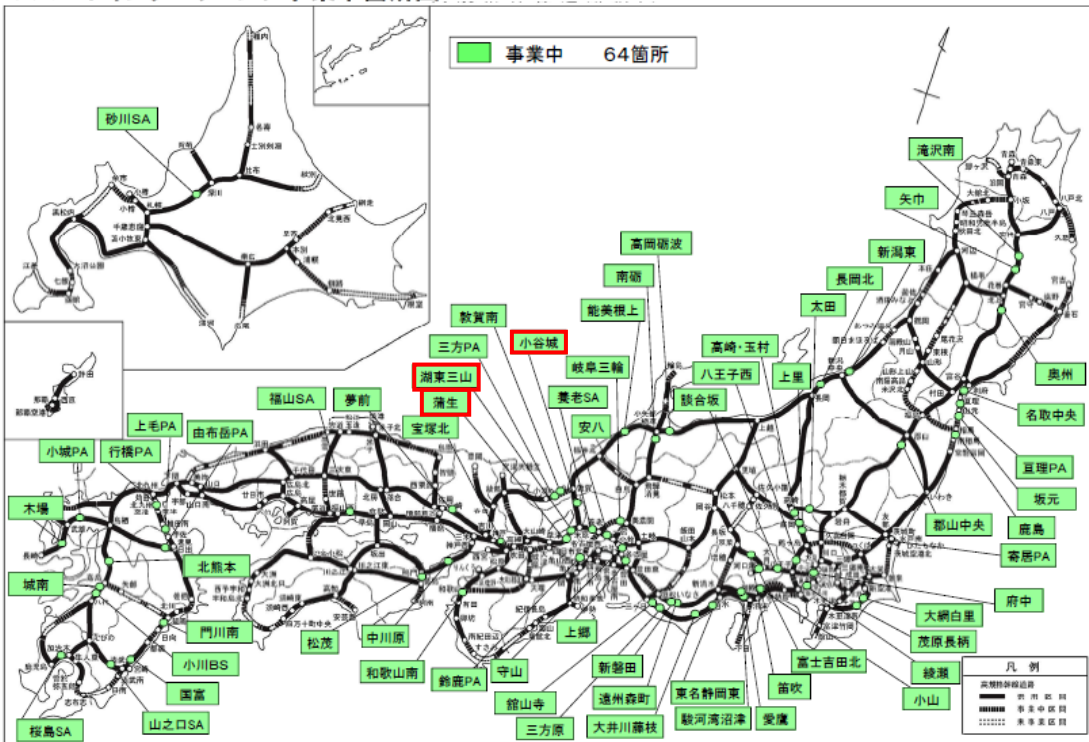
2. 全国のS I Cの導入状況

S I Cの本格的な導入は、平成18年の秋から始まった。平成25年8月25日時点で、東・中・西日本道路株式会社でのS I Cは65箇所で供用されており、事業中（開通に向けて準備中）のものは「湖東三山S I C」等を含めて64箇所ある。

スマートインターチェンジ供用中箇所図



スマートインターチェンジ事業中箇所図



資料：国道交通省道路局

3. 滋賀県内の高速道路交通量とSICの概要

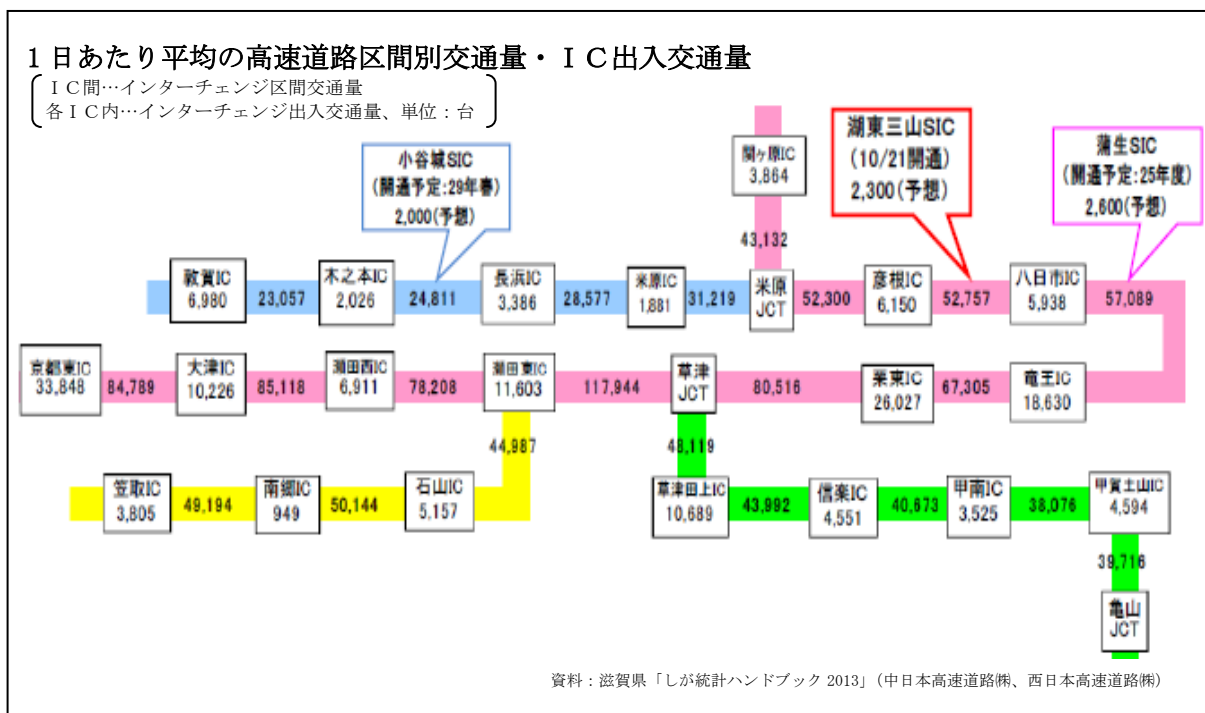
(1) 県内の高速道路交通量

平成23年度の滋賀県内の高速道路をみると、1日あたりの交通量は下図のとおりとなっている。

IC出入交通量は、「栗東IC」が26,027台で最も多く、「竜王IC」(18,630台)、「瀬田東IC」(11,603台)などが続いた。少ない順では、「南郷IC」(949台)、「米原IC」(1,881台)、「木之本IC」(2,026台)となっている。

IC区間交通量は、「草津JCT～瀬田東IC」が117,944台で最も多く、「瀬田東IC～大津IC」(85,118台)、「大津IC～京都東IC」(84,789台)が続いた。少ない順では、「敦賀IC～木之本IC」(23,057台)、「木之本IC～長浜IC」(24,811台)、「長浜IC～米原IC」(28,577台)となっている。

以上より、IC出入交通量、IC区間交通量ともに「栗東IC」から南が多く、「米原」から北が少ないことが分かる。



(2) 各SICの概要

県内では、初のSICとなる「湖東三山SIC」をはじめ、「蒲生SIC」、「小谷城SIC」の开通に向けて工事が進められている。

県内のSICの比較

名称	湖東三山SIC	蒲生SIC	小谷城SIC
路線名	名神高速道路	名神高速道路	北陸自動車道路
位置	彦根～八日市IC間	八日市～竜王IC間	長浜～木之本IC間
接続形式	PA・SA接続型	本線直結型	本線直結型
開通時期	平成25年10月21日	平成25年12月22日(予定)	平成29年3月末
予想台数	2,300台/日	当初2,600台/日	2,000台/日
総事業費	約19億円	約22.4億円	約32.7億円
事業主体	中日本高速道路㈱、滋賀県	西日本高速道路㈱、滋賀県	中日本高速道路㈱、滋賀県、長浜市

資料：愛荘町、滋賀県、長浜市HPより作成

4. SICに期待される効果と県内の現状

(1) SIC開通に期待される効果

県内の高速道路区間内に新たにICが追加で設置されることで、地域には以下の効果が期待される。

- ・ 地域交通の渋滞緩和
- ・ 救急患者の搬送経路の確保
- ・ 物流の利便性向上による企業立地数の増加
- ・ 災害時の避難経路の確保
- ・ 観光客数の増加

ここでは、「湖東三山SIC」と「蒲生SIC」の開通により、特に経済的な効果の享受が見込まれる「湖東地域」（彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町）と「東近江地域」（東近江市、近江八幡市、日野町、竜王町）の2地域の観光や企業立地について確認したい。

(2) 湖東地域および東近江地域の現状

①事業所数、従業者数

「平成24年経済センサス（活動調査）」によると、平成23年の県内の事業所数は55,469事業所、従業者数は590,842人だった（次ページ表参照）。このうち、観光と関連性のある「宿泊業、飲食サービス業」の事業所数と従業者数をみると、5,816事業所（総数に占める割合10.5%）で52,430人（同8.9%）、企業立地の面で参考となる「製造業」では、5,877事業所（同10.6%）で163,329人（同27.6%）となっている。

「湖東地域」と「東近江地域」の2地域合計の総数をみると、事業所数が15,921事業所（県合計の28.7%）、従業者数が169,637人（同28.7%）で、ともに「県合計」の3割弱の規模だった。

「湖東三山SIC」が位置する「湖東地域」では、宿泊業、飲食サービス業の割合は「彦根市」の事業所数（12.9%）、従業者数（12.0%）と「多賀町」の従業者数（9.9%）で「県合計」を上回ったが、他の自治体では下回った。特に新SIC近辺の「愛荘町」の事業所数は48事業所（5.7%）で従業者数は341人（3.4%）にとどまった。「製造業」の割合をみると、「彦根市」の事業所数（8.9%）と従業者数（22.7%）、「豊郷町」の従業者数（16.9%）以外は「県合計」を上回った。従業者数では特に「愛荘町」（51.2%）、「甲良町」（47.1%）が「県合計」を20ポイント以上上回っており、大手メーカーの工場進出が影響しているとみられる。

「湖東地域」全体としては、各業種の事業所数、従業者数が総数に占める割合は「県合計」と同程度だったが、新SIC周辺の自治体内での「宿泊業、飲食サービス業」の割合が低い。この点が、今後観光客の動向と相まってどのような変化があるかが注目される。

「蒲生SIC」が位置する「東近江地域」では、新SICから最も遠い「近江八幡市」のみ、事業所数（11.2%）、従業者数（11.2%）で「県合計」を上回った。逆に製造業では「近江八幡市」の事業所数（7.1%）、従業者数（17.7%）を除いた他の3市町で、「県合計」を上回った。特に、竜王町の従業者数は6割（61.1%）、日野町で4割（44.3%）を超えており、この地域でも大手メーカーの工場進出が影響しているとみられる。

「東近江地域」全体としては、宿泊業、飲食サービス業では事業所数（9.8%）、従業者数（7.6%）ともに「県合計」を下回っている。一方で製造業の従業者数（33.4%）で「県合計」を上回っており、特に大手製造業の立地が大きく影響している地域であるといえる。

各地域の事業所数と従業者数

(単位：事業所・人、右側の数値は総数に占める割合)

市町、地域名	総数(公務を除く)		宿泊業、飲食サービス業				製造業			
	事業所	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数		
彦根市	4,711	50,707	609	12.9%	6,069	12.0%	419	8.9%	11,534	22.7%
愛荘町	839	10,067	48	5.7%	341	3.4%	171	20.4%	5,151	51.2%
豊郷町	324	3,281	25	7.7%	205	6.2%	40	12.3%	553	16.9%
甲良町	343	2,759	11	3.2%	123	4.5%	48	14.0%	1,300	47.1%
多賀町	411	5,331	29	7.1%	528	9.9%	64	15.6%	1,901	35.7%
湖東計	6,628	72,145	722	10.9%	7,266	10.1%	742	11.2%	20,439	28.3%
近江八幡市	3,084	29,907	344	11.2%	3,361	11.2%	218	7.1%	5,292	17.7%
東近江市	4,638	47,387	452	9.7%	3,055	6.4%	566	12.2%	16,461	34.7%
日野町	943	9,370	62	6.6%	362	3.9%	146	15.5%	4,153	44.3%
竜王町	628	10,828	54	8.6%	584	5.4%	82	13.1%	6,611	61.1%
東近江計	9,293	97,492	912	9.8%	7,362	7.6%	1,012	10.9%	32,517	33.4%
2地域合計	15,921	169,637	1,634	10.3%	14,628	8.6%	1,754	11.0%	52,956	31.2%
滋賀県合計	55,469	590,842	5,816	10.5%	52,430	8.9%	5,877	10.6%	163,329	27.6%

資料：経済産業省「平成24年経済センサス(活動調査)」をもとに作成

②観光入込客数の動向

「平成23年度滋賀県観光入込客統計調査書」によると、県内への入込客数の合計は約4,736万人だった。目的別でみると、「歴史」(約938万人)、「都市型観光」(約769万人)、「スポーツ施設、キャンプ場等」(約506万人)の順で多かった。

地域別にみると、「湖東地域」の入込客数の合計は約566万人で県合計の11.9%を占めた。目的別では、「歴史」(約317万人)が最も多く、「行祭事・イベント」(約77万人)、都市型観光(約47万人)が続いた。同地域では特に「歴史」が多く、多賀町の「多賀大社」と彦根市の「彦根城」への観光客が大きく影響している。

「東近江地域」の入込客数の合計は約649万人で、県合計の13.7%を占めた。目的別では、こちらも「歴史」(約239万人)が最も多く、「スポーツ施設、キャンプ場等」(約53万人)、「公園・テーマパーク等」(約50万人)が続いた。こちらは「近江八幡市」の「日牟禮八幡宮」や「八幡堀」が観光客数を牽引している。

2地域合計の入れ込み客数は約1,214万人で、県に占める割合は4分の1(25.6%)となった。「歴史」(約556万人)、「行祭事・イベント」(約125万人)、「都市型観光」(約77万人)の順だった。特に両地域で多かった「歴史」が県合計に占める割合は59.2%と、半数以上を占め、圧倒的に多かった。

観光入込客数(目的別)

(単位：人)

市町、地域名	計	県合計に占める割合	自然	歴史・文化		温泉・健康	スポーツ・レクリエーション			都市型観光(買物・食等)	その他	行祭事・イベント
				歴史	博物館・美術館等		スポーツ施設、キャンプ場等	水泳場・マリン	公園・テーマパーク等			
彦根市	3,594,500	7.6%	0	1,354,900	22,600	0	183,800	7,000	0	462,100	853,300	710,800
愛荘町	282,700	0.6%	0	126,300	56,500	0	0	0	0	8,700	32,800	58,400
豊郷町	40,400	0.1%	0	800	39,600	0	0	0	0	0	0	0
甲良町	89,500	0.2%	0	89,500	0	0	0	0	0	0	0	0
多賀町	1,648,100	3.5%	15,700	1,599,900	13,900	0	18,600	0	0	0	0	0
湖東計	5,655,200	11.9%	15,700	3,171,400	132,600	0	202,400	7,000	0	470,800	886,100	769,200
近江八幡市	3,139,800	6.6%	126,400	1,825,600	336,900	0	200,600	0	0	215,500	268,300	166,500
東近江市	1,704,700	3.6%	30,400	488,200	48,500	167,200	84,900	0	31,300	81,400	544,800	228,000
日野町	589,900	1.2%	16,500	4,000	37,400	0	195,800	0	249,900	0	0	86,300
竜王町	1,054,700	2.2%	254,800	67,200	0	175,600	50,200	0	218,700	0	284,700	3,500
東近江計	6,489,100	13.7%	428,100	2,385,000	422,800	342,800	531,500	0	499,900	296,900	1,097,800	484,300
2地域合計	12,144,300	25.6%	443,800	5,556,400	555,400	342,800	733,900	7,000	499,900	767,700	1,983,900	1,253,500
滋賀県合計	47,357,300	-	1,784,000	9,378,200	2,808,500	2,374,200	5,055,100	268,200	3,688,600	7,687,500	9,483,000	4,830,000

資料：滋賀県「平成23年滋賀県観光入込客統計調査書」の「5.市町別・目的別入込客数」をもとに作成

③主要観光施設

「滋賀県観光入込客統計調査書」の過去10年分において観光入込客数ベスト30にランクインした施設および名所の一覧を下の表にまとめた。「湖東三山S I C」の开通により「多賀大社」、「道の駅 あいとうマーガレットステーション」は、高速道路からのアクセスが格段に良くなるため、特に観光客数の増加が見込まれる。この他、新S I Cの名称の元となった「湖東三山」（西明寺、金剛輪寺、百済寺）や「永源寺」近辺、旧中山道沿いの歴史施設などにも効果があると思われる。

東近江地域および湖東地域内の主要観光施設および名所

地域	市町名	施設および名所
湖東	多賀町	多賀大社
湖東	彦根市	彦根城
東近江	近江八幡市	日牟禮八幡宮
東近江	近江八幡市	八幡堀
東近江	東近江市	道の駅 あいとうマーガレットステーション
湖東	彦根市	夢京橋キャッスルロード
東近江	竜王町	道の駅 竜王かがみの里
東近江	日野町	滋賀農業公園ブルーメの丘
東近江	東近江市	本山永源寺周辺
東近江	東近江市	太郎坊宮
東近江	竜王町	アグリパーク竜王
東近江	近江八幡市	安土城跡
東近江	近江八幡市	休暇村近江八幡

資料：滋賀県「観光入込客統計調査書」（平成14年～23年）の「6. 観光入込客数ベスト30」をもとに作成
掲載順：直近年度での入込客数が多い順

④観光入込客数増加に向けての取り組み

愛荘町では、国道307号線から「湖東三山S I C」への取り付け道路沿いに、地元の物産品販売所及び飲食店の出店を計画している。地元の観光協会が主体となって、平成26年秋の開業に向け、現在造成中である。また民間企業では、大手の飲料品や文具品のメーカーが工場見学を行っており、こうした動きを行う工場が増えてくれば、いわゆる「産業観光」という新しい観光名所として定着する可能性もある。

「蒲生S I C」は、周辺用地の規制などの課題があるが、開通時までにはどのような具体策が出されるか、今後半年間の動向が注目される。

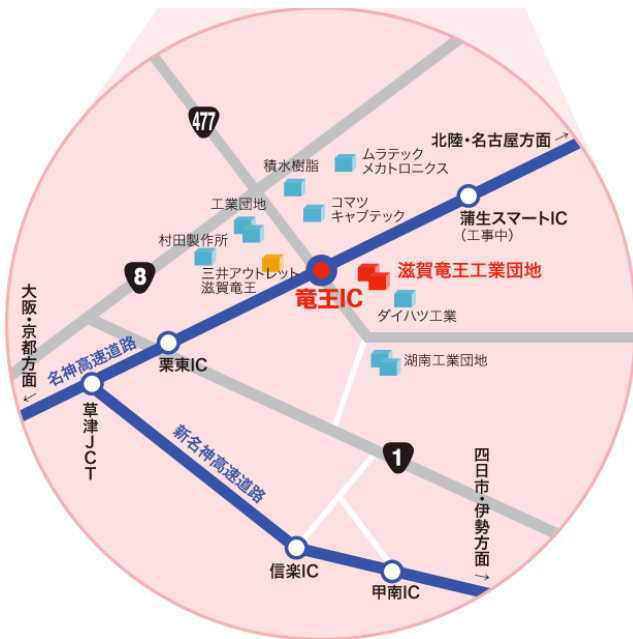
⑤企業立地

S I Cの有効活用のためには、物流面での優位性を生かした企業誘致も重大な課題の一つである。愛荘町は、ホームページ上で「愛荘町企業誘致マップ」を公開している（次ページ参照）。同町総合政策課によると、5か所のうち町有地は無く、全て民間所有地である（図上の④は京都の商社がメガソーラーを設置済み）。

現在目立った動きは無いとのことだが、京阪神や中京および北陸圏へのアクセス性と、愛知川水系の水質の良さを強みとしており、食料品関係などの企業誘致に期待がかかる。



「蒲生SIC」周辺では、「滋賀竜王工業団地」が注目される(下図参照)。総面積 527,767 ㎡、分譲面積 302,367 ㎡の大型物件だ。「竜王IC」から 1.5km、「蒲生SIC」から 6.5km に位置しており、近隣には大企業の工場が多く、湖南工業団地からも近い。第1期工事区画分譲は 2年後の平成 27 年を予定されている。



この他、彦根IC～竜王IC間には、多くの工業用地がある。以下は、滋賀県のホームページから抜粋した工業立地（空き民有地）である。

彦根IC～竜王IC間の工業立地一覧

NO	物件所在地	面積 (㎡)	価格 (円/㎡、円/坪)	都市計画区分 (用途地域)	建物の 有無	ICからの距離
1	彦根市野田山	5,572	88,000円/坪 程度	工業専用地域	なし	彦根IC 2.9km
2	彦根市野田山	8,175	120,000円/坪 程度	工業専用地域	なし	彦根IC 2.4km
3	彦根市野田山	9,734	90,000円/坪 程度	工業専用地域	なし	彦根IC 2.4km
4	東近江市鯉江町	5,230	価格応談	非線引都市計画区域	なし	八日市IC 約3.5km
5	東近江市大塚町 (蒲生中部工業団地)	13,250	価格応談	調整区域	なし	八日市IC 約10km 蒲生SIC 約6km
6	東近江市中小路町	4,959	価格応談	調整区域	なし	八日市IC 約1.5km
7	東近江市中小路町	14,796	価格応談	調整区域	なし	八日市IC 約1.5km
8	東近江市上岸本町	13,998	価格応談	非線引都市計画区域	なし	八日市IC 約3km
9	日野町北脇 (日野第二工業団地)	14,929	22,800円/㎡ 程度	工業地域	なし	八日市IC 約6km
10	日野町北脇 (日野第二工業団地)	3,931	18,200円/㎡ 程度	工業専用地域	なし	八日市IC 約6km
11	多賀町敏満寺	5,252	70,000円/坪 程度	工業地域	なし	彦根IC 約8km

資料：滋賀県HP（企業立地）より作成

5. まとめ

SICの开通は、地元経済活性化への好機である。企業立地としては、陸路の要所としてアクセスの優位性や大手の進出企業も多いことから、今後どのような業種の企業が進出し、産業集積が進められていくか注目である。

観光客の誘致においては、広域的に効果が出せるかどうか注目したい。集客効果が新SIC周辺のみならず、かえって隣接市町の観光客が減るようなことがあれば、今回の機会を十分に生かしたとは言いがたい。今回の「湖東三山SIC」周辺だけでも自然や歴史などの優れた観光資源はあるが、視野を東近江地域および湖東地域まで広げると、それぞれの魅力から相乗効果を生み出す可能性がある観光資源がたくさん存在することが分かる。市町単位の枠組みを越えた行政の連携や民間企業の協力により、県内外から新たな観光客の誘致につながることを期待したい。

平成 25 年 10 月
 (株)しがぎん経済文化センター
 経済リサーチ部 中村